静岡・坂尻（さかじり）遺跡

1　所在地　静岡県袋井市国本
2　調査期間　一九八〇年（昭55）一二月～一九八三年（昭58）
3　発掘機関　袋井市教育委員会
4　調査担当者　吉岡伸夫・永井義博・西井幸雄・松井一明ほか
5　遺跡の種類　官衙跡・集落跡
6　遺跡の年代　古墳時代前期～近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

坂尻遺跡は、静岡県袋井市と掛川市の境、南流する原野谷川の西岸に形成された自然堤防上に立地し、隣接して、南に旧東海道が東西に通っている。遺跡面積は、およそ六万㎡と推定される。

国道一号線バイパス建設に伴う事前踏査により、いくらかの土器片が採集されていたが、一九八〇年一二月より行われた第一次調査（範囲確認調査）において、

（磐田）

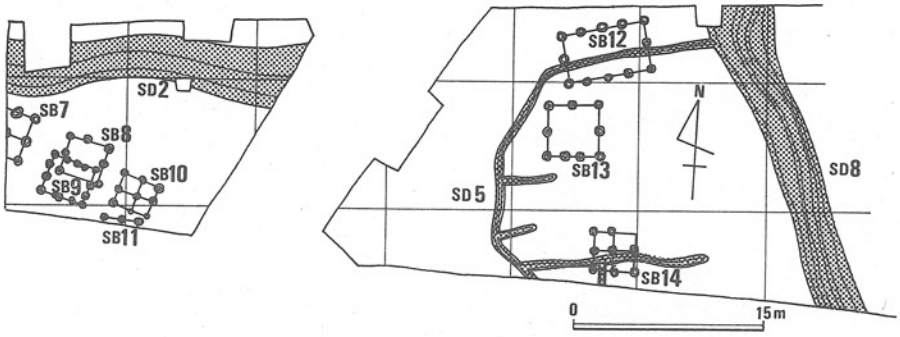
奈良時代を中心とする多量の土器片と、古墳時代中期から近世にいたる溝状遺構、竪穴状遺構、柱穴列等、重複する多数の遺構の存在が確認された。また出土土器中に「日根□」という佐野郡の郷名を記した墨書土器（杯、奈良時代）が含まれていたことから、遺跡の取扱いばかりでなく、その性格についてまでも論議されるようになった。袋井市教育委員会では、工事予定区域約八〇〇〇㎡について、全面発掘調査することとし、一九八二年三月現在、およそ四五〇〇㎡について調査を終了した。調査は継続中であるが、一九八一年度の調査では、古墳時代前期の環濠と考えられる三条の溝、古墳時代後期に位置づけられる多数の竪穴状遺構群、および奈良時代に編年される一五棟の掘立柱建物群、溝状遺構等を検出している。

8　木簡の釈文・内容

(1)「〈□□□　(62)×20×3　039

(2)「〈　□　□□　(119)×26×7　039

(1)はSD八と仮称した溝の最下層に堆積した砂質粘土中より出土したものである。SD八は、西岸に一条の杭列と横木により段を設け、その上岸に礫を張りつめた護岸施設を有していた。溝は灰色粘土層により蓋をされた状態であり、遺物は最下層に集中していた。文字の判読は困難であるが、第一字がくさかんむりであるとすれば、



坂尻遺跡（E～G区間）奈良時代遺構配置図

「若」とも読める。第二字の偏部は比較的明瞭であり、にんべんと思われる。或いは「倭」かもしれない。共伴遺物に、多数の墨書土器、獣足付土器片、丸鞆、馬形等がある。

(2)はSD二と仮称した溝の中層より出土したもので、下端を人為的に切断している。文字は、第一字が、或いは「麻」かもしれない。共伴する土器は奈良時代に編年される。貝塚が形成されており、「玉郷長」と墨書された杯底部片を伴出している。

他にSD一二と仮称した奈良時代の溝より、木簡の削屑と考えられるものを一括採集しているが、現在、内容の判読、保存について検討中である。

9 関係文献

『一般国道一号袋井バイパス（袋井地区）埋蔵文化財発掘調査報告書—坂尻遺跡第一次調査—』 建設省・静岡県・袋井市教委 一九八一年

同 『同—坂尻遺跡第二次調査—』 一九八二年

（吉岡伸夫）

木簡(1)
（赤外線テレビ使用）